

# 西田 VI 遺跡

都市計画道路 横手鶴光路線道路改良  
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

## 序

前橋市は、雄大な裾野をひいてそびえる赤城山を北方に望み、市域を利根川が豊かな水を湛え貫流する県都であります。

今、緑豊かな環境づくりの基本計画に基づき「水と緑と詩のまち」を目指し、歴史・文化遺産の保護や緑の中の環境教育の整備を進めています。

関越自動車道の建設で首都への距離は、大幅に短縮されさらに北関東自動車道の建設による日本海側と太平洋側へのアクセスによってはかり知れない便益を生むことが期待されています。今回の調査は、前橋の中心市街地と北関東自動車道を結ぶ主要地方道前橋・玉村バイパスに、アクセスする都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に先立って行われた西田VI遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書であります。

この地域では、現在も水田が広がり、市内の農業生産主要地帯の一つに数えられています。近くには、古代の土地制度の名残といわれる公田の地名が残るなど、水田跡を研究するうえで貴重な遺跡が点在する所であります。調査では、1108年に噴火した浅間山の火山灰に覆われた平安時代の水田跡、住居址や古墳へ平安時代の溝跡と、中世以降の溝跡と、近世以降の溝跡、古墳へ平安時代の土坑を検出することができました。調査範囲が限られているため水田区画等は、完全なもの検出には至りませんでしたが、本地域の歴史解明に貴重な資料を加えることができました。この調査報告書を刊行するに当たり、関係各機関並びに本遺跡周辺地域の方々の御理解と御協力に対し厚く御礼申し上げます。

平成13年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 阿部 明雄

## 例　　言

- 1 本報告書は、都市計画道路 横手鶴光路線道路改良事業に伴う西田VI遺跡発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市鶴光路町256-5番地外
- 3 調査は、前橋市北関東自動車道対策室の委託を受け、前橋市埋蔵文化財発掘調査団(団長阿部明雄)が事業主体となり、同調査団からの業務委託を受けたスナガ環境測設株式会社(代表取締役須永眞弘)が実施した。
- 調査担当者 小峰 篤(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)  
権田友寿(スナガ環境測設株式会社)  
金子正人(スナガ環境測設株式会社)
- 4 発掘調査期間 平成12年11月30日～平成13年1月26日  
整理期間 平成13年1月27日～平成13年3月23日
- 5 調査計画面積 400m<sup>2</sup> (3面調査)
- 6 出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永眞弘、調査担当…権田友寿、調査助言…金子正人、測量…権田友寿・渡辺克弘、写真撮影…権田友寿、安全管理(重機オペレーター)…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。
- 8 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆を権田友寿、編集・校正…須永眞弘、実測図の整理他…権田友寿・佐々木智恵子、写真整理・内業事務…須永豊・柴崎信江・戸根治美が担当した。
- 9 発掘調査に参加した方々(敬称略)  
飯島勝亥　飯島いし　石田みよ子　伏島経夫　伏島みさを　根井よし子　今井つる　岡根時太  
中川住一　高橋あき　高橋春江　棟沢伊勢次　上村一視　奈良武利　水石信雄　岡根義雄  
貝瀬寿雄　下田和子　山本良政　今井ヨネ

## 凡　　例

- 1 遺跡の略称は、12G50である。
- 2 遺構名の略称 住居址…H、溝跡…W、土坑…D、柱穴…Pで表示した。
- 3 実測図の縮尺 A・B・C区平面図1/100, 1/500、溝跡1/60、土坑1/60、柱穴1/60を使用。
- 4 掘入図は、国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
- 5 各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点と照合済。基準点A-0グリッド地点第IX系座標値X 37120.000m, Y-85540.000m、水準点 BL 1…79.00m, BL 2…79.00m, BL 3…79.00m、等高線5cm、グリッド4m間隔
- 6 土層断面の土色名は『新版標準土色誌』(農林省農林水産技術会議事務局 監修 財團法人 日本色彩研究所 色票監修)による。
- 7 土層注記及び本文中にはAs:浅間山の略称を使用し、断面図の地山部分に斜線を使用した。

## 目　　次

序	IV 層序	3
例　　言	V 検出された遺構と遺物	4
凡　　例	1. 概　　観	4
目　　次	2. 奈良・平安時代住居址	4
I 調査に至る経緯	3. 平安時代水田跡	4
II 遺跡の位置と歴史的環境	4. 古墳～平安時代・中世・近世以降の溝跡	5
1. 遺跡の立地	5. 古墳～平安時代の土坑	7
2. 歴史的環境	6. 古墳～平安時代のピット	7
III 調査の経過	VI ま　と　め	8
1. 調査方針		
2. 調査経過		

# 挿 図

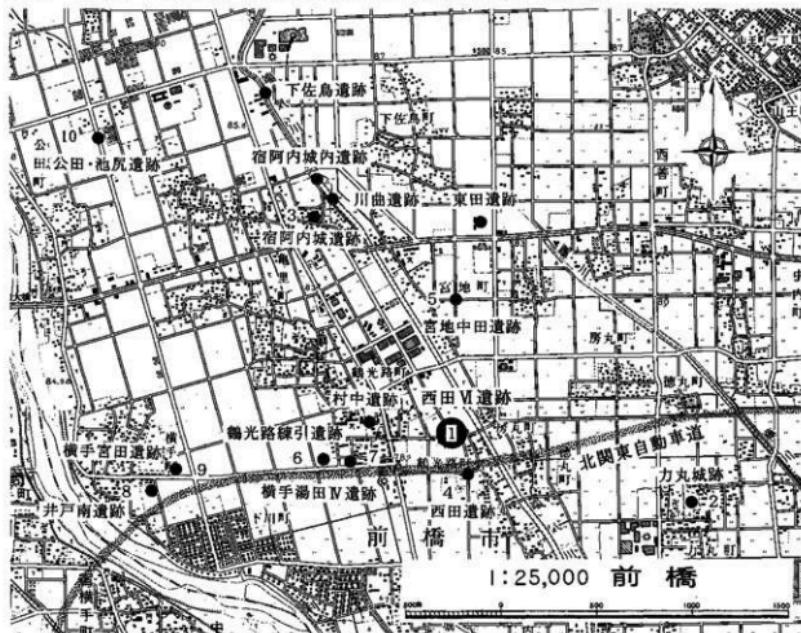
第1図	周辺遺跡図(S = 1:25,000)	
第2図	遺跡位置図(S = 1:2,500).....	2
第3図	基本土層断面図.....	3
第4図	西田VI遺跡現況平面図(S = 1:500).....	9
第5図	H-1号住居址平面・断面図(S = 1:60.30).....	10
第6図	A区第1面平面・断面図(S = 1:100).....	11
第7図	A区第2面平面・断面図(S = 1:100).....	13
第8図	B区第1・2面平面・断面図(S = 1:100).....	15
第9図	C区第1面平面・断面図(S = 1:100).....	16
第10図	A区1-1'~13-13'断面図(S = 1:60).....	17
第11図	A区14-14'~29-29'断面図(S = 1:60).....	18
第12図	B・C区30-30'~43-43'断面図(S = 1:60).....	19
第13図	遺物実測図(S = 1:3).....	20

# 表

水田跡計測表.....	8
出土遺物観察表.....	8

# 写真図版

- 図版1 椰査前A区現況(東から撮影)、椰査前B区現況(東から撮影)、椰査前C区現況(東から撮影)、H-1号住居址全景(南から撮影)、H-1号住居址左カマド完掘、H-1号住居址右カマド完掘、A区W-2.6全景(東から撮影)、A区W-2.6西壁セクション
- 図版2 A区第1面西側全景(東から撮影)、A区第1面東側全景(西から撮影)、B区第1面全景(東から撮影)、C区第1面全景(東から撮影)、A区第2面全景(西から撮影)、B区第2面全景(東から撮影)、A区第3面試掘トレンチ(東から撮影)、B区第3面試掘トレンチ(東から撮影)
- 図版3 C区第2・3面試掘トレンチ(南から撮影)、B区深掘り土層断面、出土遺物



第1図 周辺遺跡図

## I 調査に至る経緯

都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業(前橋市鶴光路町256-5番地外)に伴い、前橋市北関東自動車道対策室より埋蔵文化財についての照会が前橋市教育委員会にあり、これを受けた文化財の有無について事前協議を行った。その結果、平成7年度から行われている群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施している北関東自動車道建設に伴う発掘調査や、前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団(以下「調査団」という。)が実施した「西田遺跡」などの調査で平安時代の水田跡等が検出されていることから、その隣接場所である当対象地に於いても、遺構の包蔵地であると判断されたため、道路改良事業の実施に先だって埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存することとなった。

発掘調査は、調査団から業務受託を受けたスナガ環境測設株式会社が実施した。なお、遺跡名称「西田VI遺跡」の「西田」は、旧地籍の小字名を採用している。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

### 1. 遺跡の立地

本遺跡は、JR前橋駅から南へ約5.7kmにある。関越自動車道高崎インターチェンジから県道27号線(高崎・駒形線)を東へ3.8km程進むと前橋・玉村線(平成13年2月末開通)と交差する。これを右折し1.0km程南下すると、北関東自動車道の本線高架(前橋南料金所)の手前右側に本遺跡がある。遺跡の東方約100mには、一級河川端尾川が南流し2km程で、佐波郡玉村町との市町境で利根川に合流している。周辺の地形は、前橋台地南東端の背後湿地上に立地し、標高78m程の平坦な地形を利用し、現在も水田が広がっている。

### 2. 歴史的環境

現在、西田VI遺跡(1)の所在する鶴光路町周辺では、北関東自動車道の本線(平成13年3月31日高崎-伊勢崎間開通)及び側道部分の建設が進められ、これに先立ち埋蔵文化財の発掘調査が行われている。本遺跡も近隣に建設されている北関東自動車道の前橋南インターチェンジとのアクセス道路としての役割を持つ横手・鶴光路線道路改良事業に先だって調査が進められている。この付近一帯では、浅間B輕石(1108年降下)に覆われた平安時代の水田跡などの発掘調査が活発に行われ、その数も増加しつつある。本遺跡で検出されたものと同時期の水田跡が発見されている主な遺跡を挙げると、西田遺跡(4)、宮地中田遺跡(5)、鶴光路練引遺跡(6)、横手湯田IV遺跡(7)、井戸南遺跡(8)、横手宮田遺跡(9)、公田池尻遺跡(10)、などがあり、この他にも現在発掘が行われている遺跡を含めて数多くの点在し、古くから穀倉地帯として利用されていたことがわかる。また、鶴光路町の東側には、「房丸」、「徳丸」、「方丸」といった地名が残り、室町時代の城館跡である力丸城(2)や室町・戦国時代の宿内城(3)が代表されるように、中世の城館跡も重要視されてくる地区である。このうち力丸城は、那波氏一族がいたところで那波郡(現在の伊勢崎市宮栄から前橋市上川瀬・下川瀬に及ぶ地域)という広大な地域を支配していたといふ。この那波郡には、火雷(ほのかずち)神社(現在の玉村町大字下之宮)や、倭文(しどり)神社(現在の伊勢崎市上之宮町)があり、延喜式内社に列せられている。

## III 調査の経過

### 1. 調査方針

調査区が、西、中央と東の3箇所に離れているため、西をA区、中央をB区、東をC区と付称し、グリッドの設定を行った。公共座標に基づき東西方向に延びる縦線に直交する経線を算用数字(1, 2, ...)で、南北方向に延びる経線に直交する縦線をアルファベット(A, B, ...)で付称して、4mグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。(例A区A-1, B区A-1など)また、水準は公共水準点に基づき調査区内に測設した。

図面作成は、1/10, 1/20, 1/40, 1/250の縮尺を使用し、平板・造形による細部測量で作図を行った。また、遺構・遺物等の写真撮影(白黒・リバーサルフィルム)も行った。



第2図 遺跡位置図

## 2. 調査経過

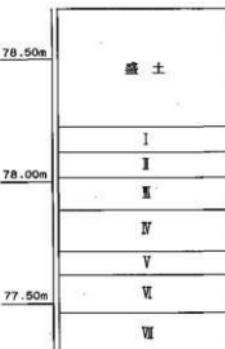
平成12年11月30日より資材・重機類の搬入、休憩所・仮設トイレを設置すると同時に、調査区外周に、防護ネットを張り安全対策を行った。市調査団の指導のもと重機によるA区の西側半分より第1面表土掘削を開始し、並行して、人力による精査、造構確認を実施し、第2面終了後A区の東側半分とC区・B区第1面の調査を実施し、引き続きA区の東側半分とB区第2面の調査を行った。第2面の調査終了後各区ごとに試掘トレーニングを入れ、下層の造構確認を行った。また、深掘りトレーニングをB区に入れ、土層の確認を行った。

- 平成12年11月30日 資材・重機搬入、休憩所・仮設トイレ設置、安全対策用ネット張り
- 12月1日 重機によるA区西側半分第1面表土掘削開始、人力精査開始
- 12月4日 基準点及び水準点取り付け測量、造構平面・断面実測開始
- 12月8日 A区西側半分第1面造構掘削終了、全景写真撮影（A区西側半分第1面）
- 12月9日 造構平面・断面実測開始（A区西側半分第1面）
- 12月14日 重機によるA区西側半分第2面造構掘削開始、人力精査開始
- 12月19日 造構平面・断面実測開始（A区西側半分第2面）
- 12月21日 重機によるA区東側半分第1面表土掘削開始
- 12月25日 重機によるC区第1面表土掘削開始、A区東側半分第1面人力精査開始
- 12月26日 重機によるB区第1面表土掘削開始、C区第1面人力精査開始
- 12月28日 造構平面・断面実測開始（A区東側半分第1面）
- 平成13年1月6日 造構平面・断面実測開始（C区第1面）
- 1月13日 造構平面・断面実測開始（B区第1面）  
全景写真撮影（A区東側半分第1面、B区第1面、C区第1面）
- 1月15日 重機によるA区西側半分第2面造構掘削開始、C区第2面・第3面試掘調査
- 1月16日 C区埋戻し・整地作業完了、A区東側半分第2面人力精査開始
- 1月19日 重機によるB区第2面造構掘削開始、全景写真撮影（A区第2面）、A区第3面試掘調査
- 1月20日 A区埋戻し・整地作業完了、B区第2面人力精査開始
- 1月22日 A区安全対策資材類の撤収
- 1月23日 全景写真撮影（B区第2面）
- 1月24日 B区第3面試掘調査、B区埋戻し・整地作業完了
- 1月26日 資材類の撤収完了
- 1月27日 整理作業開始
- 3月18日 印刷・製本
- 3月23日 整理作業完了  
(発掘調査日誌抜粋)

#### IV 層 序

層序は、調査区内に入れた深掘りトレーンチをもとに、模式的に、断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また、深掘り土層断面写真は、図版3を参照されたい。

- I 黒褐色粘質土層白色軽石φ1～3mmをわずかに含む  
 II As-B軽石層  
 III 暗褐色粘質土層白色軽石φ1～2mmをわずかに含む(B水田層)  
 IV 黒褐色粘質土層白色軽石粒と橙色軽石粒をわずかに含む  
 V 緩灰色粘質土層細砂を含み鉄分の凝集、酸化が見られる  
 VI 灰褐色粘質土層白色軽石粒φ2mm程をわずかに含む  
 VII 灰白色粘質土層白色シルトを含み黄褐色のマンガン酸化跡あり



第3図 基本土層断面図

## V 検出された遺構と遺物

### 1. 概観

A区・B区の第1面、2面・C区の第1面調査では、As-B軽石下の水田跡7面と奈良・平安時代の住居址1軒と古墳～平安時代の溝跡11条、中世以降の溝跡2条、近世以降の溝跡2条、古墳～平安時代の土坑2基、ピット8基を検出した。特に水田の遺存状況は、C区で後世の搅乱により損われていた。A区・B区の第3面とC区の第2・3面の試掘では遺物の検出には至らなかった。遺物は、須恵器・土師器片、石など総数1580点を検出した。

### 2. 奈良・平安時代住居址

#### H-1号住居址 [第5・7図、図版1・2]

A区のH-5～H-6グリッドにかけて位置する。形状 長方形を呈する。規模 長軸(3.2m)、短軸(3.0m)、確認面から床面までの壁高6～14cm。面積 10.46平方メートル(推定)、方位 N-75°-E、カマド 東壁のほぼ中央とやや北よりに2基並んでいて、北よりのカマドを左カマド、ほぼ中央のカマドを右カマドとすると、左カマドは焼土が多く残り、かなり使い込んでいる跡がうかがわれるが右カマドには左カマドほど焼土が確認されなかった。また、袖の部分において右カマドの左袖部分が左カマドの中に入り込むような形になつていて重なる部分の袖が右カマド占有の袖として考えられ、古くなった左カマドから新しい右カマドに作り変えたものと思われる。左カマドの主軸方向はN-79°-Eで、全長60cm、幅不明、焚口部幅不明。右カマドの主軸方向は、N-75°-Eで、全長90cm、幅80cm、焚口部幅45cm。構築材は、左右とも灰白色粘質土と暗褐色土を混ぜたものを使用している。柱穴 合計3ヶ所検出したがP-2、P-3は、掘り方後に検出した。P-1長径24cm、短径23cm、深さ32cm、のほぼ円形、P-2長径20cm、短径20cm、深さ14cm、の円形、P-3長径15cm、短径12cm、深さ20cm、の梢円形で、貯蔵穴と重複している。貯蔵穴 右カマドの右袖脇にあり、長径48cm、短径38cm、深さ7cm、の梢円形である。床面 黄褐色土層を掘り込んでその上に暗褐色土を整地して床面としている。第1面では、As-B下水田面を確認し、第2面掘削をはじめて水田層を5cm下げた時焼土を確認し住居を検出した。B・C調査区に比べA調査区のH-5、6グリッド付近は、微高地になっている状況から住居域の存在がうかがわれる。

遺物は、全体で須恵器片39点、土師器片454点、石3点を検出した。

### 3. 平安時代水田跡

A・Bの調査区で検出された水田跡は、現地表面より50～70cm程下にあり、3～10cm程のAs-B軽石純層やAs-B軽石混土層が堆積しておりその真下より部分的な検出であるが扁平な畦畔4本とその畦畔に囲まれた水田区画がA区で3面、B区で2面計5面検出された。畦畔1は、A調査区の西端の壁際に検出し、南北方向N-2°～3°-Wを示し、G-2～H-2グリッドにかけて位置する。規模は上端幅30～50cm、下端幅110～130cm、高さ2～2.5cm程を測る。保存状態は、あまり良好とは言えず押しつぶされたような扁平な形状を呈する。畦畔2は、南北方向N-6°～7°-Wを示し、H-5～I-5グリッドにかけて位置し北端でカクランに入る。規模は上端幅30～40cm、下端幅100～110cm、高さ1.5～2cm程を測る。保存状態は、あまり良好とは言えず押しつぶされたような形状を呈する。畦畔3は、南北方向N-33°～35°-Eを示す。H-9～H-10グリッドにかけて位置し、規模は上端幅不明、下端幅100～120cm、高さ1～1.5cm程を測る。保存状態は、非常に悪く途中で北端は検出できなくなつた。畦畔4は、B区内のF-13～H-13グリッドにかけて位置し、南北方向N-18°～20°-Eを示し、規模は上端幅30～100cm、下端幅80～180cm、高さ5～8cm程を測る。保存状態は、良好で扁平な台形状を呈する。いずれも水口は、検出されなかつた。また、東西方向の畦畔が確認されていないので水田区画全体の規模は不明である。水田面の状況は、高低差が少なく平坦であったが、人の足により踏み荒らされたと思われる部分が非常に多く歩行方向のたどれるものはなかつた。また、牛や馬の踏跡と思われるものも数箇所検出した。全体の傾斜はA区1号水田の標高78.10mからB区5号水田の標高78.00mの比高差10cmを持ち、西から東方向で約2.0/1000mの勾配が見られる。この勾配を利用して「かけ流し」の方法で水田耕作をしていたと思われる。また、耕土状態は、深掘り断面より水田に適した暗褐色粘質土層が10～15cm程の厚さで堆積し、さらに下層に暗褐色、灰褐色粘

質土層が厚く堆積していることから水田の水持ちを良好なものにしていると思われる。C調査区で検出された水田跡は、現地表面より60~80cm程下にあり、北壁付近では3~10cm程のAs-B軽石純層やAs-B軽石混土層の堆積が見られたがほとんどの部分ではAs-B軽石層を検出できなかった。畦畔は、検出されず水田面には後世の耕作痕が1m程の間隔を置いて東西南北に筋状の擾乱となって水田面を著しく傷めていた為、検出状況は良くなかった。水田面の状況は、ほぼ平坦で高低差が少ない田面で、人の足跡と思われるものも確認されたが歩行方向のたどれるものはなかった。全体の傾斜は北西側の標高77.87mから南東側の標高77.85mの比高差2cmを持ち、北西から南東方向で約1.5/1000mの勾配が見られる。この勾配を利用して水田耕作をしていたと思われる。遺物は、全体で須恵器片261点、土師器片268点、陶器片3点、石3点を検出した。

#### 4. 古墳~平安時代(W-1~9, 13, 14)・中世以降(W-11, 12)・近世以降(W-10, 15)の溝跡

##### W-1 [第6・10図、図版2]

A区のG-4~H-7グリッドにかけて位置する。規模は、総延長12.8m、上幅120~150cm、下幅40~50cm、深さ28~34cmを測る。断面形状は、薬研状を呈する。掘り込みは、As-B下水田層から黄褐色土層まで見られ、覆土はAs-B軽石を含む灰褐色粘質土層とAs-B軽石や白色軽石を含む黒褐色粘質土層で埋まっている。走行は、北西から南東方向にほぼ直線に延び、流水も北西側の溝底の標高77.84mから南東側標高77.72mにかけて流れたと思われる。

遺物は、須恵器片13点、土師器片33点、石1点を検出した。

##### W-2 [第6・7・10・11図、図版1・2]

A区のH-2~I-4グリッドにかけて位置する。規模は、総延長5.5m、上幅120~150cm、下幅30~50cm、深さ19~24cmを測る。断面形状は、半梢円状を呈する。掘り込みは、As-B下水田層を掘り込み覆土は、As-B軽石とAs-B軽石を含む黒褐色粘質土で埋まっている。走行は、北西から南東方向に延び、途中W-6と2条に分岐し5.5m程平行に走行すると南壁付近でまたW-6と交差が見られた。流水方向は、北西側の溝底の標高77.88mから南東側標高77.85mにかけて流れたと思われる。また、同じ位置に平行してあることから溝の作り替えも考えられる。新旧関係は、W-6を埋めてからW-2を掘り込んだ跡があるのでW-2が新しいと思われる。

遺物は、須恵器片11点、土師器片15点、石1点、W-2, 6範囲より須恵器片45点、土師器片85点を検出した。

##### W-3 [第6・10図、図版2]

A区のF-7~H-7グリッドにかけて位置する。規模は、総延長7.9m、上幅50~80cm、下幅25~50cm、深さ12~17cmを測る。断面形状は、半梢円状を呈する。掘り込みは、As-B下水田層をわずか掘り込み覆土は、As-B軽石を多く含む灰褐色砂層で埋まっている。走行は、北から南方向へほぼ直線に延び、W-1と交差する。流水方向は、北側の溝底の標高77.92mから南側標高77.86mにかけて流れたと思われる。新旧関係は、W-3がW-1を掘り込んでいることからW-3が新しいと思われる。

遺物は、須恵器片8点、土師器片4点、石2点を検出した。

##### W-4 [第7・11図、図版2]

A区のG-2~G-7グリッドにかけて位置する。規模は、総延長19.8m、上幅60~80cm、下幅25~50cm、深さ9~18cmを測る。断面形状は、半梢円状を呈する。掘り込みはAs-B下水田層から黄褐色土層まで見られ、覆土はAs-B軽石と白色軽石粒を含む暗褐色粘質土で埋まっている。走行は、東から西方行へほぼ直線に延びる。途中でW-1とW-3に交差しているがW-1との交差部分でカクランが入っており、新旧関係は不明。W-3はW-4を掘り込んでいることからW-3が新しいと思われる。流水方向は、東側の溝底の標高77.89mから西側標高77.73mにかけて流れたと思われる。第1回調査の時には、田面が人間の踏み荒らされた跡により確認できず、第2回調査の時に確認することができた。作り変えのため埋められたと思われる。

遺物は、須恵器片11点、土師器片26点を検出した。

##### W-5 [第7・11図、図版2]

A区のH-5~I-5グリッドにかけて位置する。規模は、総延長3.3m、上幅80~120cm、下幅40~60cm、深さ33~49cmを測る。断面形状は、半梢円状を呈する。掘り込みは、As-B下水田層の下から黄褐色土層を掘り込んでいる。覆土は、白色軽石を含む黒褐色粘質土層で埋まっている。走行は、北から南方向へ延び、流水方向は、

南側の溝底の標高77.68mから北側標高77.49mにかけて流れたと思われる。

遺物は、土師器片2点を検出した。

**W-6 [第7・10・11図、図版1・2]**

A区のH-3, 4~I-4グリッドにかけて位置する。規模は、総延長5.5m、上幅40~60cm、下幅25~35cm、深さ15~20cmを測る。断面形状は、半梢円状を呈する。掘り込みは、As-B下水田層から黄褐色土層まで掘り込んでいる。覆土は灰褐色粘質土層と砂質土及び、黄褐色土を含んだ黒褐色粘質土層で埋まっている。走行は、北西から南東方向に延び、W-2の途中から分岐し、6.0m程平行して走行するがまたW-2に交差するように延びている。流水方向は、南東側の溝底の標高77.78mから北西側標高77.71mにかけて流れたと思われる。第1面調査の時には、水田面に土層変化がなく確認できず、第2面調査の時に確認することができた。西壁の土層断面から考えても作り変えと思われる。

遺物は、須恵器片1点、土師器片5点を検出した。

**W-7 [第6・8図、図版2]**

A区のG-7~G-10グリッド、B区のG-12~G-15グリッドにかけて位置する。規模は、A区の総延長13.5m、B区の総延長11.7m、上幅120~150cm、下幅90~120cm、深さ3~12cmを測る。断面形状は、半梢円状を呈する。掘り込みは、As-B下水田層をわずか掘り込んでいる。覆土は白色軽石を含んだ黒褐色粘質土層と灰褐色砂質土層とで埋まっている。走行は、東から西方へほぼ直線に延び、流水方向は、B区東側の溝底の標高78.00mからA区西側標高77.90mにかけて流れたと思われる。

遺物は、須恵器片38点、土師器片30点、陶器片1点を検出した。

**W-8 [第6・10図、図版2]**

A区のG-7~G-9グリッドにかけて位置する。規模は、総延長6.2m、上幅30~70cm、下幅15~80cm、深さ3~6cmを測る。断面形状は、半梢円状を呈する。掘り込みは、As-B下水田層をわずか掘り込んでいる。覆土はAs-B軽石を多く含んだ黒褐色砂質土層で埋まっている。走行は、東から西方へほぼ直線に延び流水方向は、東側の溝底の標高78.00mから西側標高77.95mにかけて流れたと思われる。

遺物は、須恵器片3点、土師器片9点を検出した。

**W-9 [第9・12図、図版2]**

A区のE-24グリッドに位置する。規模は、総延長1.0m、上幅80cm、下幅40cm、深さ10cmを測る。断面形状は、半梢円状を呈する。掘り込みは、As-B下水田層をわずか掘り込んでいる。覆土はAs-B軽石を多く含んだ黒褐色粘質土層で埋まっている。走行は、北西から南東方向へ延びていると思われるが、調査区内にわずか確認できる程度であるため不明である。W-15と交差しているがW-9をW-15が掘り込んでいるのでW-9が古いと思われる。

遺物は、検出されなかった。

**W-10 [第9・12図、図版2]**

C区のE-25グリッドに位置し、ほとんどが調査区外に存在する。規模は、総延長1.1m、上幅170cm、下幅70cm、深さ40cmを測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。掘り込みは、As-B軽石層とAs-B下水田層を掘り込んでいる。覆土は塩化ビニールを含んだ黒褐色土層で埋まっていて新しい溝と思われる。走行は、北から南方向へ延びていると思われるが、調査区内にわずか確認できる程度であるため不明である。

遺物は、検出されなかった。

**W-11 [第9・12図、図版2]**

A区のF-24~H-25グリッドにかけて位置する。規模は、総延長8.7m、上幅30~50cm、下幅15~25cm、深さ4~10cmを測る。断面形状は、半梢円状を呈する。掘り込みは、As-B下水田層をわずか掘り込んでいる。覆土は橙色粒を含んだ黒褐色土層で埋まっている。走行は、北北西から南南東方向へ延び、流水方向は、北北西側の溝底の標高77.83mから南南東側標高77.77mにかけて流れたと思われる。また、W-9とW-11は同一の溝でW-15に掘り込まれたと思われる。

遺物は、検出されなかった。

**W-12 [第9・12図、図版2]**

C区のE-25～E-26グリッドにかけて位置しほとんどが調査区外に存在する。規模は、総延長1.2m、上幅80cm、下幅40cm、深さ10cmを測る。断面形状は、不明。掘り込みは、As-B軽石とAs-B下水田層をわずか掘り込んでいる。覆土は白色軽石粒と小礫を含んだ黒褐色土層で埋まっている。走行、流水方向は、不明である。

遺物は、検出されなかった。

#### W-13 [第7・11図、図版2]

A区のF-7～I-9グリッドにかけて位置する。規模は、総延長10.1m、上幅80～90cm、下幅20～40cm、深さ5～12cmを測る。断面形状は、半楕円状を呈する。掘り込みは、白色軽石粒と橙色粒を含んだ黒褐色粘質土層を掘り込んでいる。覆土は白色軽石粒を多く含んだ黒褐色土層で埋まっている。走行は、南南東から北北西方向へ8mほど走行し、その後北西へ走行を変えて延びる。流水方向は、北北西側の溝底の標高77.85mから南南東側標高77.80mにかけて流れたと思われる。

遺物は、須恵器片5点、土師器片12点を検出した。

#### W-14 [第7図、図版2]

A区のH-7～H-8グリッドにかけて位置する。規模は、総延長5.5m、上幅20～45cm、下幅8～25cm、深さ6～10cmを測る。断面形状は、半楕円状を呈する。人間の足を呈するやわらかい土を踏みつけて作ったような簡単な溝である。覆土は暗褐色砂質土で埋まっている。走行は、北西から南東方向へ延び、流水方向は、北西側の溝底の標高77.85mから南東側標高77.80mにかけて流れたと思われる。

遺物は、検出されなかった。

#### W-15 [第9・12図、図版2]

C区のE-23～E-26グリッドにかけて位置する。規模は、総延長11.3m、上幅100～120cm、下幅25～40cm、深さ24～30cmを測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。掘り込みは、As-B軽石層からAs-B下水田層を掘り込んでいる。覆土は塩化ビニールを含んだ黒褐色粘質土層で埋まっている。走行は、西から10m程東方向へ走行し、その後南東へ1.3m走行を変えて延びる。流水方向は、西側の溝底の標高77.63mから東側標高77.59mにかけて流れられたと思われる。

遺物は、検出されなかった。

### 5. 古墳～平安時代(D-1, D-2)の土坑

#### D-1 [第7・11図、図版2]

A区のH-4～I-4グリッドにかけて位置する。規模は、長径4.4m、短径70～180cm、深さ12cmを測る楕円形。掘り込みは、黄褐色土層を掘り込んでいる。覆土は、白色軽石粒を多く含む黒褐色土層で埋まっている。

遺物は、須恵器片4点、土師器片2点を検出した。

#### D-2 [第7・11図、図版2]

A区のH-4.5～G-4グリッドにかけて位置する。規模は、長径3.6m、短径60～90cm、深さ12cmを測る楕円形。掘り込みは、黄褐色土層を掘り込んでいる。覆土は、白色軽石粒を多く含む黒褐色土層で埋まっている。

遺物は、検出されなかった。

### 6. 古墳～平安時代(P-1～P-8)のピット

A調査区第2面でH-3～H-4グリッドにかけて5基検出された。規模は、長径、短径30cm前後、深さ10～15cmを測る円形で掘立柱建物遺構を検討したが断定できなかった。覆土は、白色軽石粒を少量と橙色粒を少量含む黒褐色と褐色土層で埋まっている。検出し遺物は、検出されなかった。B調査区第2面では、F-13～H-13グリッドにかけて3基検出された。規模は、長径、短径18～30cm前後、深さ18～22cmを測る。規則性や用途を確認することはできなかった。覆土は、白色軽石粒を少量と橙色粒を含む黒褐色土層で埋まっている。遺物は、検出されなかった。

### 水田跡計測表

番号	面積(m <sup>2</sup> )	東緯(m)	西緯(m)	南緯(m)	北緯(m)
A区 1	(3.61)	(8.9)	—	—	—
2	(90.22)	(8.6)	(8.6)	—	—
3	(160.47)	(7.9)	(8.6)	—	—
4	(9.92)	—	(7.9)	—	—
B区 5	(28.90)	(9.1)	—	—	—
6	(59.28)	—	(9.1)	—	—
C区 7	(103.15)	—	—	—	—

1 眩畔の長さは、S = 1/40段上のにおけるセンター間の距離

2 水田面積は、株面積を示す。算出方法は、S = 1/40の四面をコンピューター入力して算出

3 ( ) は、推定数値を含む

### 出土遺物観察表

法量は①口径②底径③横径④器高⑤長さ⑥幅⑦厚さ⑧重さを表す。

No	出土位置	器形	法量	①胎形②焼成③色④残存	成・整形方法
1	A-2 No.35, 39	高台付輪 (須恵器)	①(13.8)②6.8 ④4.4	①普通②真赤③灰白2.5YR6/2 一部黒墨④2/3残	体部直線的に外様し口縁部で外反する。外面輪縁部。底部回転糸切後ナデ調整。高台部欠損。
2	A-1 No.43	杯 (須恵器)	①(13.8)②5.6 ④3.8	①粗②良 ③灰色5YR1/1	上げ底気泡の底部。体部は僅かに内弯し、口縁部で外反する。外面輪縁部。底部回転糸切手ヘラ削り。
3	H-1 力一括	杯 (土師器)	①(13.0)②8.7 ④3.0	①普通②良好 ③純い黄5YR6/3	平底の底部より真っすぐに開く口縁部。口縁部横ナデ体部ヘラ削り後ナデつぶし、低部ヘラ削り調整。内面ナデ調整。
4	H-1 力No.1	甕 (土師器)	①(17.0) ④(11.0)	①普通②良好 ③橙2.5YR6/6	球形の体部から緩やかに内弯し口縁部上半で外極する。外面口辺部横ナデ頭部指押え後ナデ体部ヘラ削り。内面口縁部から胴部横ナデ調整。
5	H-1 一括	甕 (土師器)	①(17.6) ④(5.8)	①密②良好 ③純い桔5YR7/4④1/4残	肩部で腰をなして口縁部で外傾する。内外面横ナデ外側肩部ヘラ削り、内面体部ナデ調整。
6	A-1 No.29, 14	壺 (須恵器)	①(17.0)②(3.3) ④3.0	①密②良好 ③灰色6/0	輪縁部、ボタン型摘出部貼付。体部内弯し段をつけながら輪縁部直角につまみ出した口縁部。外外面輪縁部。
7	H-1 力一括	杯 (土師器)	①(12.0)②5.6 ④3.8	①普通②良好 ③純い黄5YR7/3④2/3残	明確な底部を持たぬ底高から腰やかに内弯し口縁部で外反する。内外口縁部横ナデ底部へ体部指押え痕顕著。
8	H-1 力一括	高台付輪 (須恵器)	①(14.0)②(6.4) ④5.0	①普通②良③褐焼10YR4/1 一部灰白2/1④5残	外傾する高台部。直線的に立ち上がる体部へ外反する。口縁部。外面輪縁部。底部回転糸切後付高台。
9	A-2 No.28	高台付輪 (須恵器)	①(15.0)②7.0 ④5.3	①普通②良好③灰白5YR8/1	短い高台部から体部側に裏らみを持ち口縁部で外反する。外面輪縁部。底部回転糸切後付高台。
10	A-2 No.31, 32 H-1 一括	碗 (土師器)	①(16.0)②7.0 ④5.5	①普通②良好 ③淡赤橙2.5YR7/6	大振りの椀。底部より腰やかに開く体部。内外面ナデ調整。底部回転糸切ナデ調整。内面内面ナデ調整。
11	A-2 一括	高台付輪 (土師器)	①(15.0) ④4.7	①普通②不良 ③橙2.5YR7/8④1/5残	体部は丸みを持ち口縁部で開き気味に外反する。外面輪縁部。高台部欠損。内面ナデ調整。

註) 表の記載は以下の基準で行った。

1 土はセ(0.5mm以下)、普通(0.6~1.0mm以下)、粗(2.0mm以上)とした。

2 成は、良好、良、不良の3段階。

3 大きさの単位はcm, gであり、( )は推定値及び現存値を記載した。

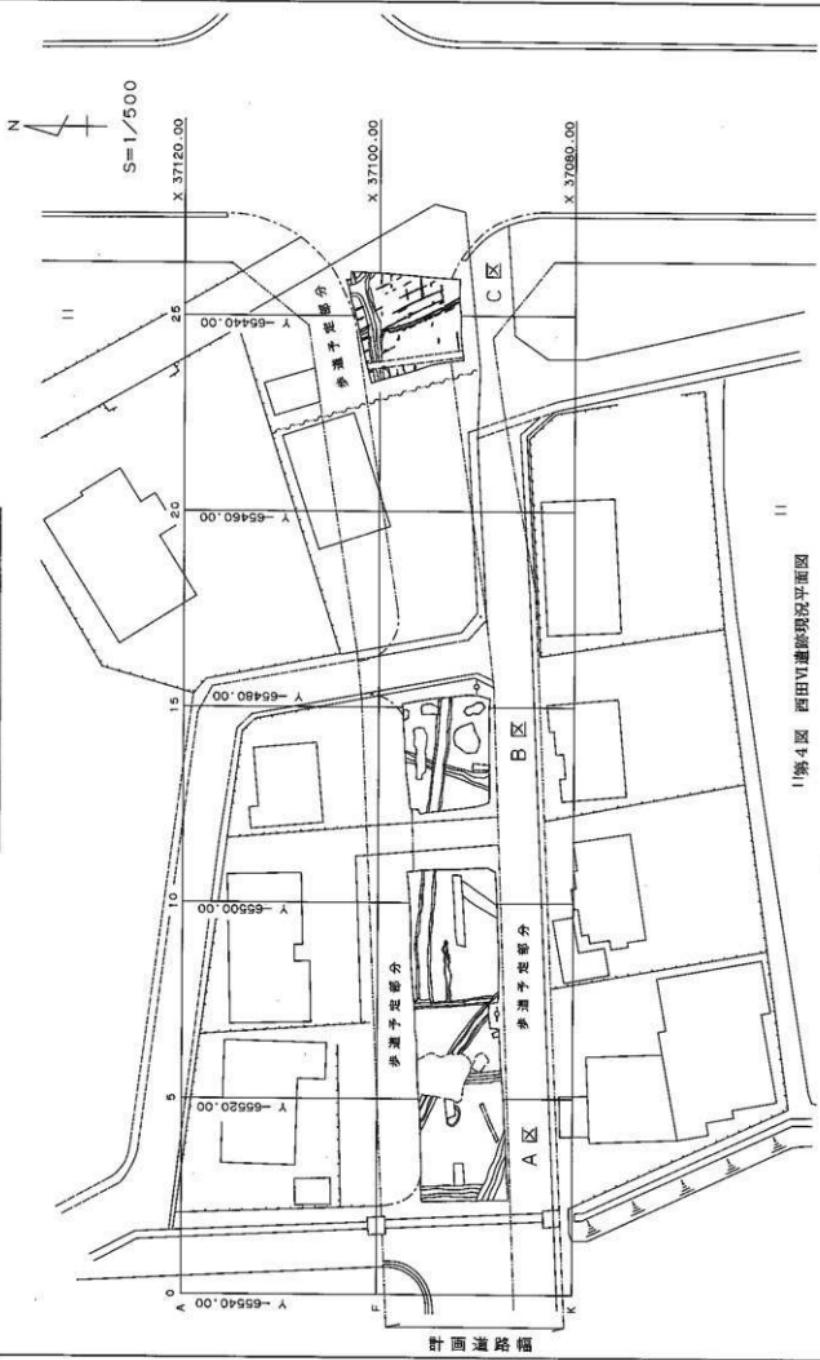
4 違う時代は、住居址H-で表した。

5 出土位置のナンバーは、検出位置を示す。

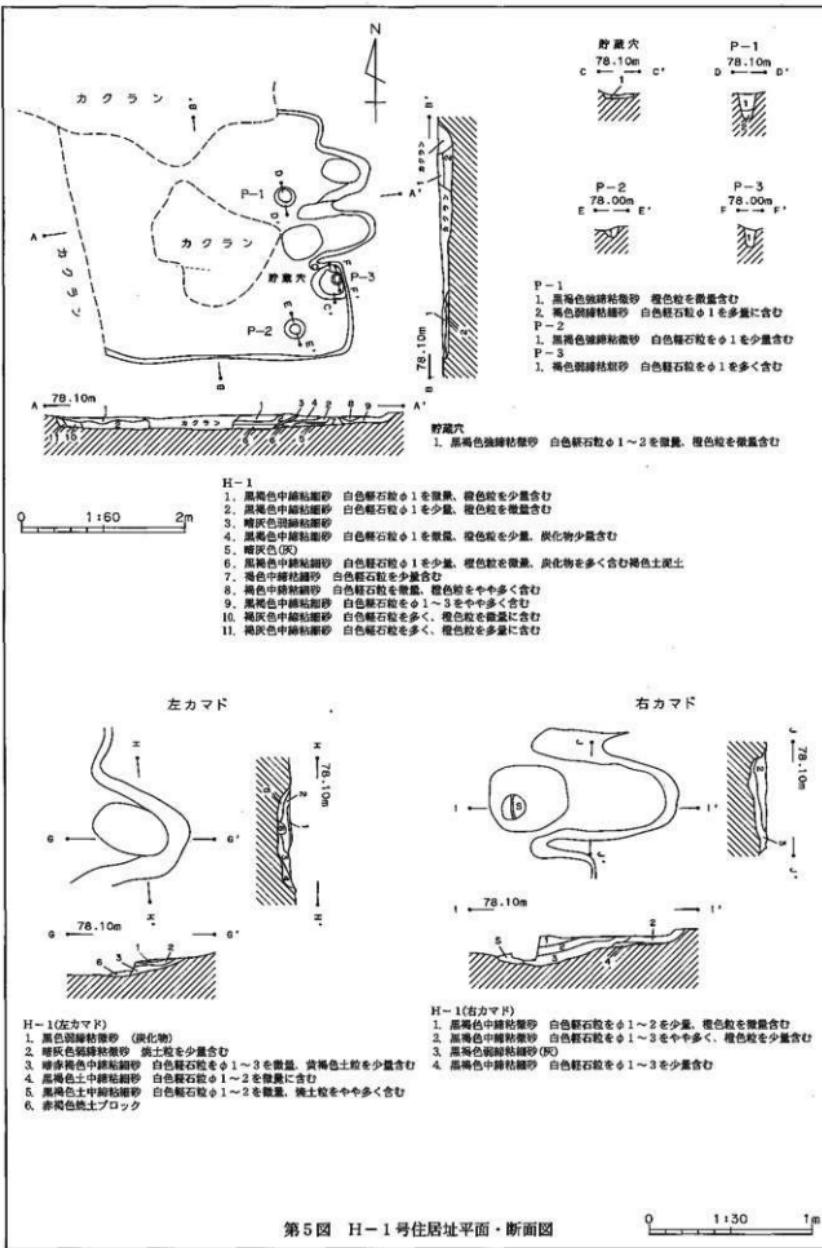
## VI まとめ

今回の調査では、浅間山の噴火に伴い降下したAs-B軽石(1108年)に埋没した平安時代の水田跡がA・B・C区合わせて7面検出された。調査範囲が狭小なことで、四方を囲む完全な畦畔での水田区画は検出されなかった。そこで、本遺跡の条里制水田との関連を見ると、部分的に検出した畦畔の方向や、畦畔間隔などから見て、区画の規則性が薄れてきている点があげられ、隣接する西田遺跡で検出された東西方向に走行する他の畦畔より幅広な大畦畔(100~110cm)と思われる位置から本調査区の畦畔検出位置を想定するとA区、B区、C区とも大畦畔に当たるものはなかった。本遺跡の周辺では、西田遺跡をはじめ宮地中田遺跡、鶴光路練引遺跡など、同時代の水田跡から大畦畔が検出されている状況から本遺跡や周辺に於いて、条里制に関係する水田が展開されていたことがうかがわれる。また、As-B水田の下から検出した住居址は、出土遺物から9世紀後半から10世紀前半と思われ、この時期に住居域から水田耕作地へと土地利用の変更があったことがうかがわれる。溝についてもW-2とW-6の関係は、比較的浅く幅の狭いW-6を埋めて水田とし、W-2を整備し水田のための水路としAs-B軽石降下後、間もなく溝としての機能を失ったと思われる。今回、A・B区の3面、C区の2・3面において遺構確認のためトレンチを入れたが、遺構検出には至らなかった。北関東自動車道の建設に伴う遺跡調査が現在も続いていることから、今後の調査により水田跡の全容も解明されていくことと思われる。

西田VI遺跡現況平面図

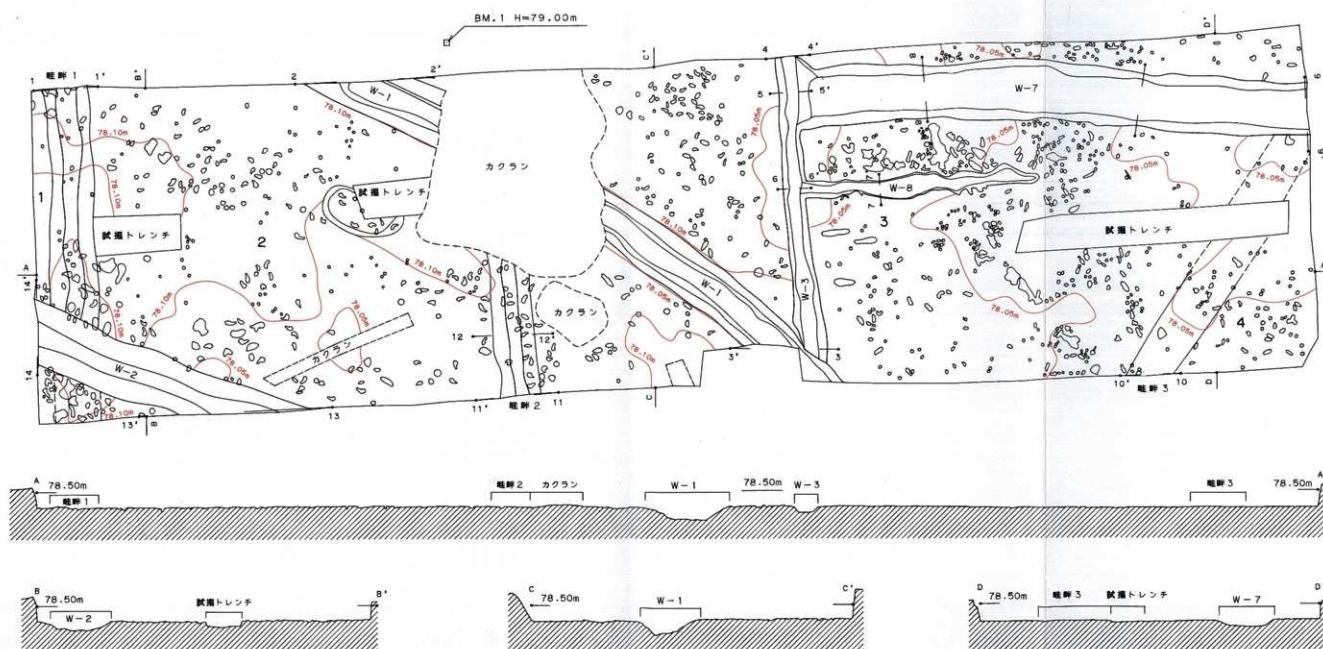


第4図 西田VI遺跡現況平面図



A区第1面平面図

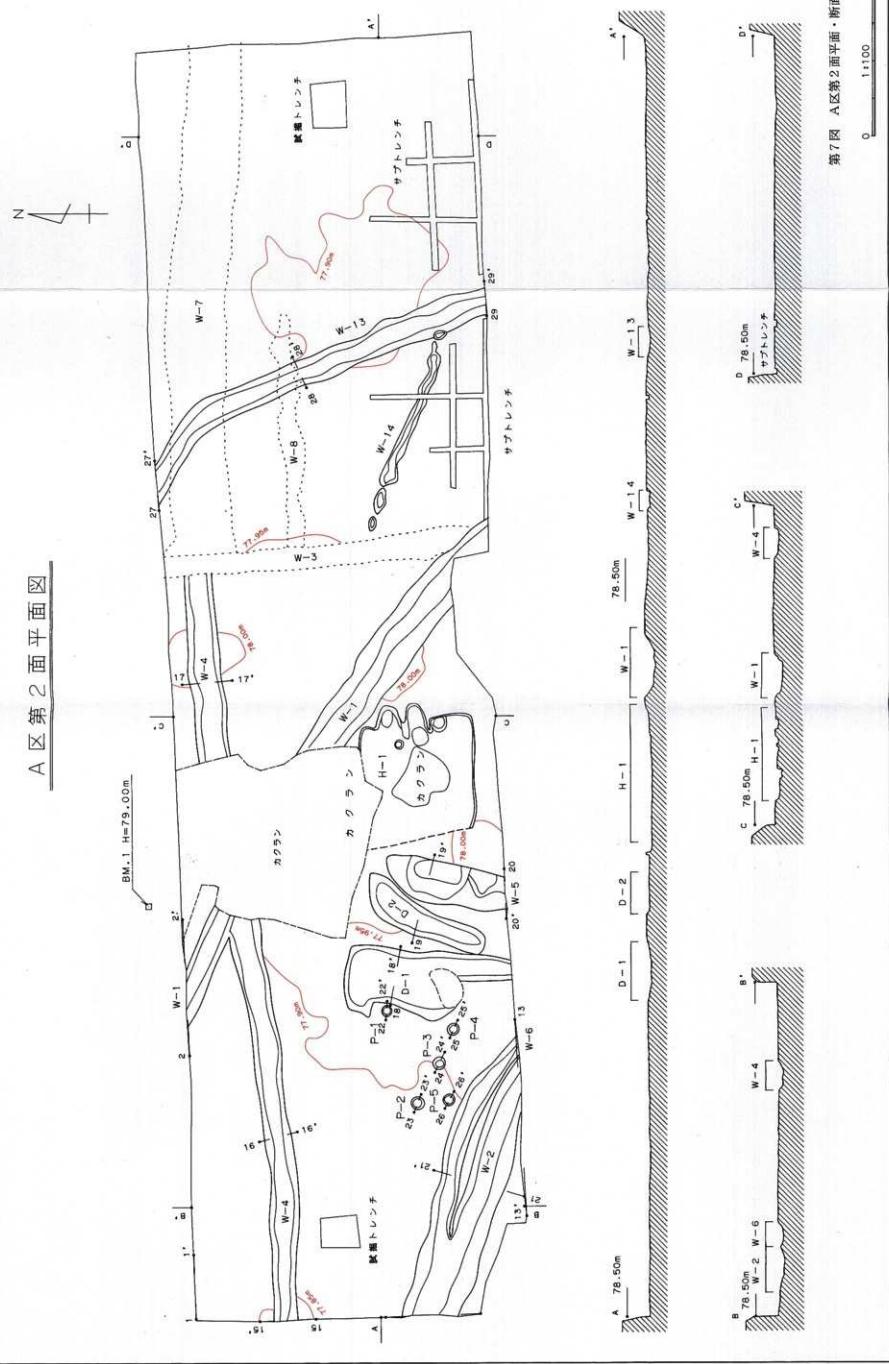
N



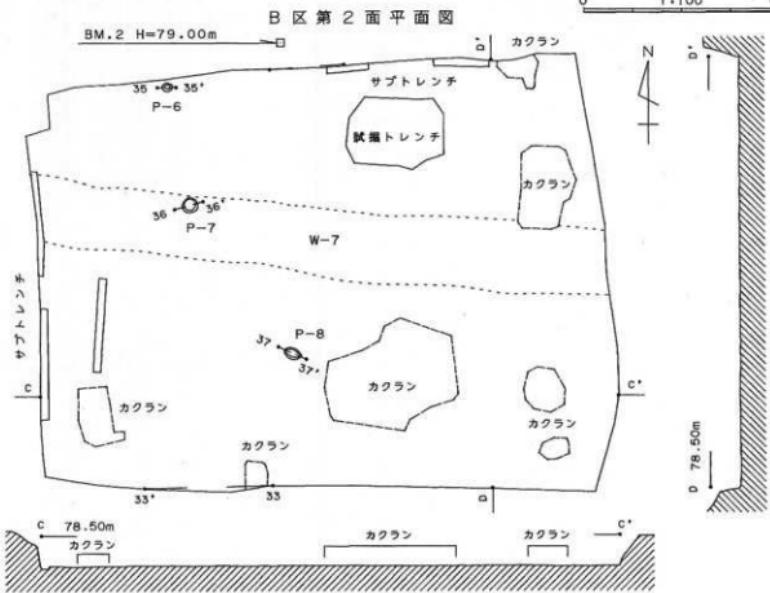
第6図 A区第1面平面・断面図

0 1:100 4m

A区第2面平面図

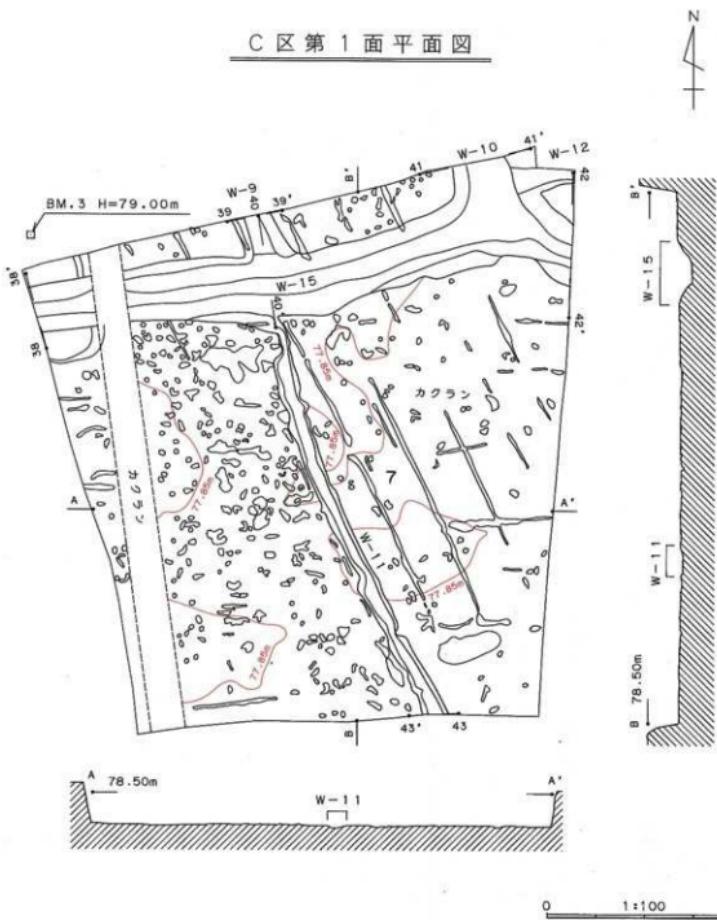


第7図 A区第2面平面・断面図

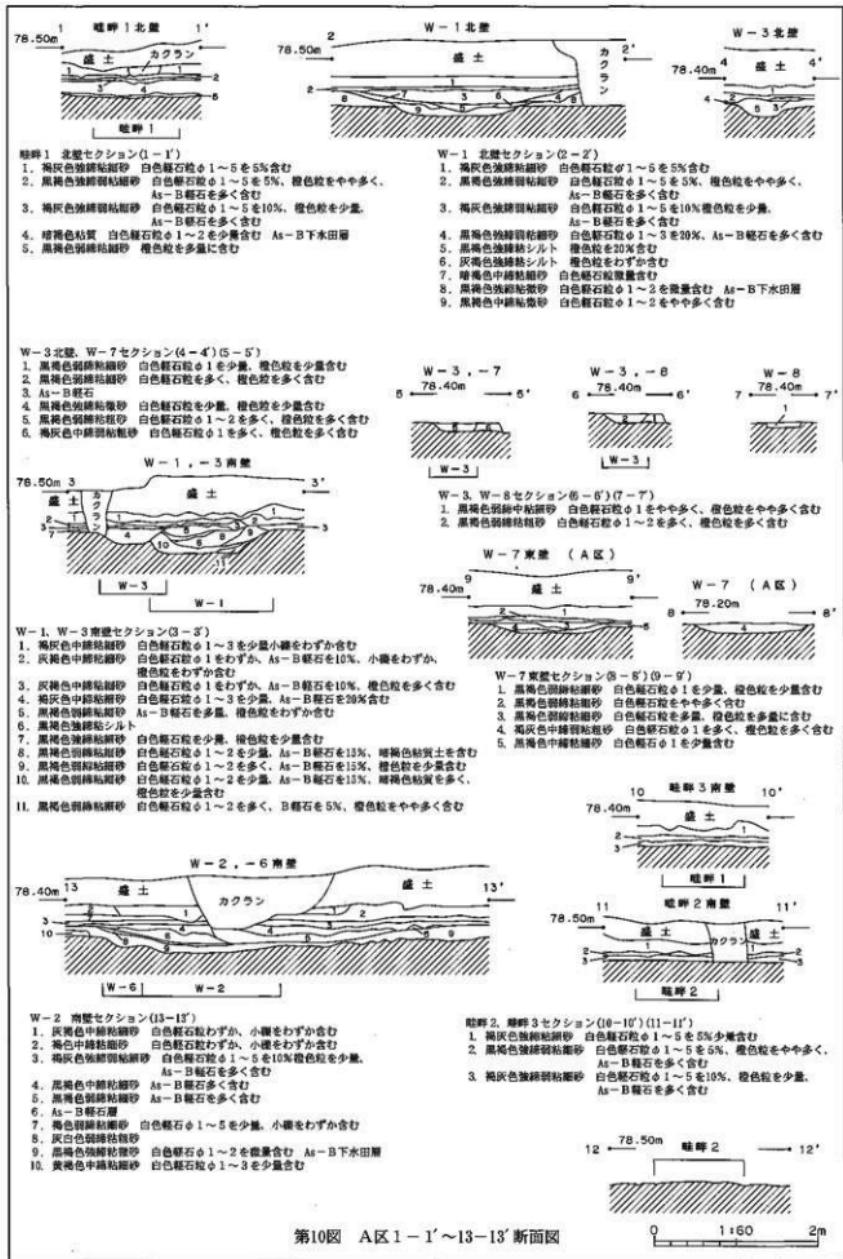


第8図 B区第1・2面平面・断面図

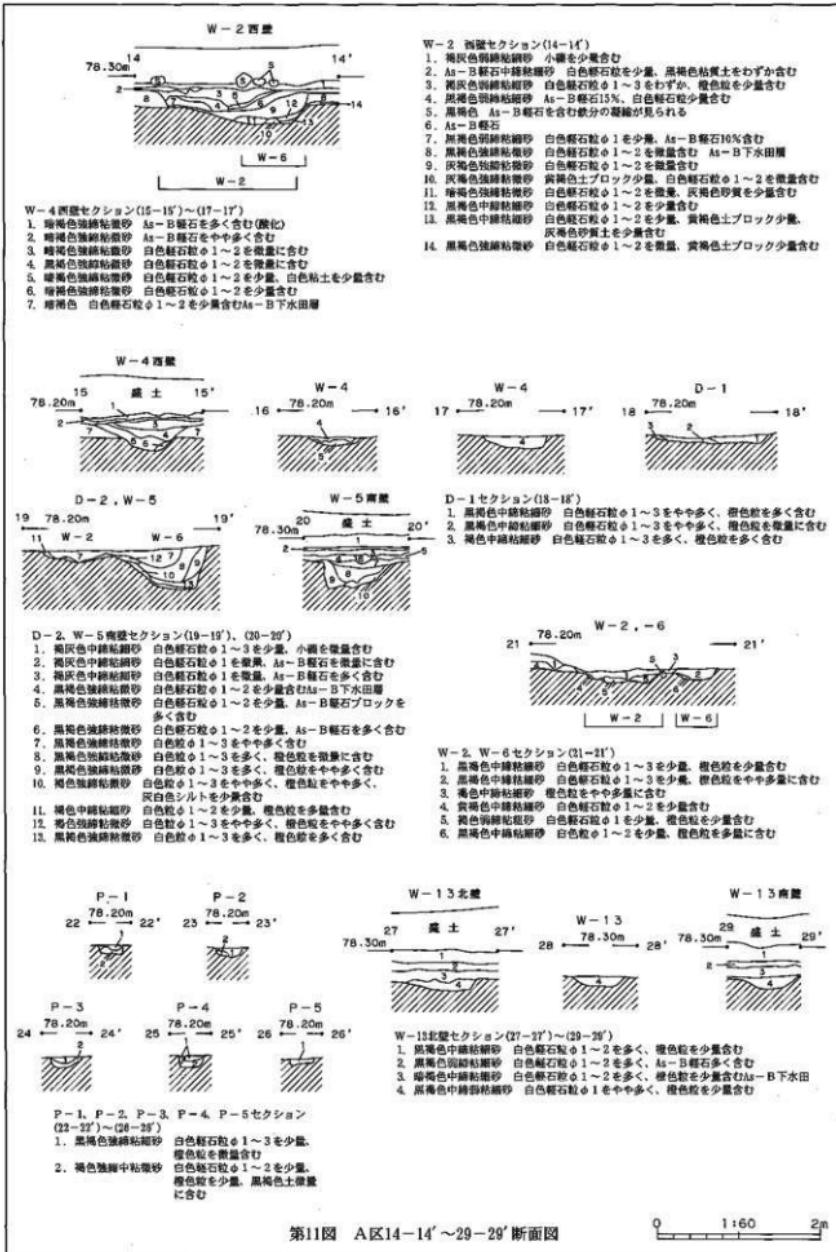
C区第1面平面図

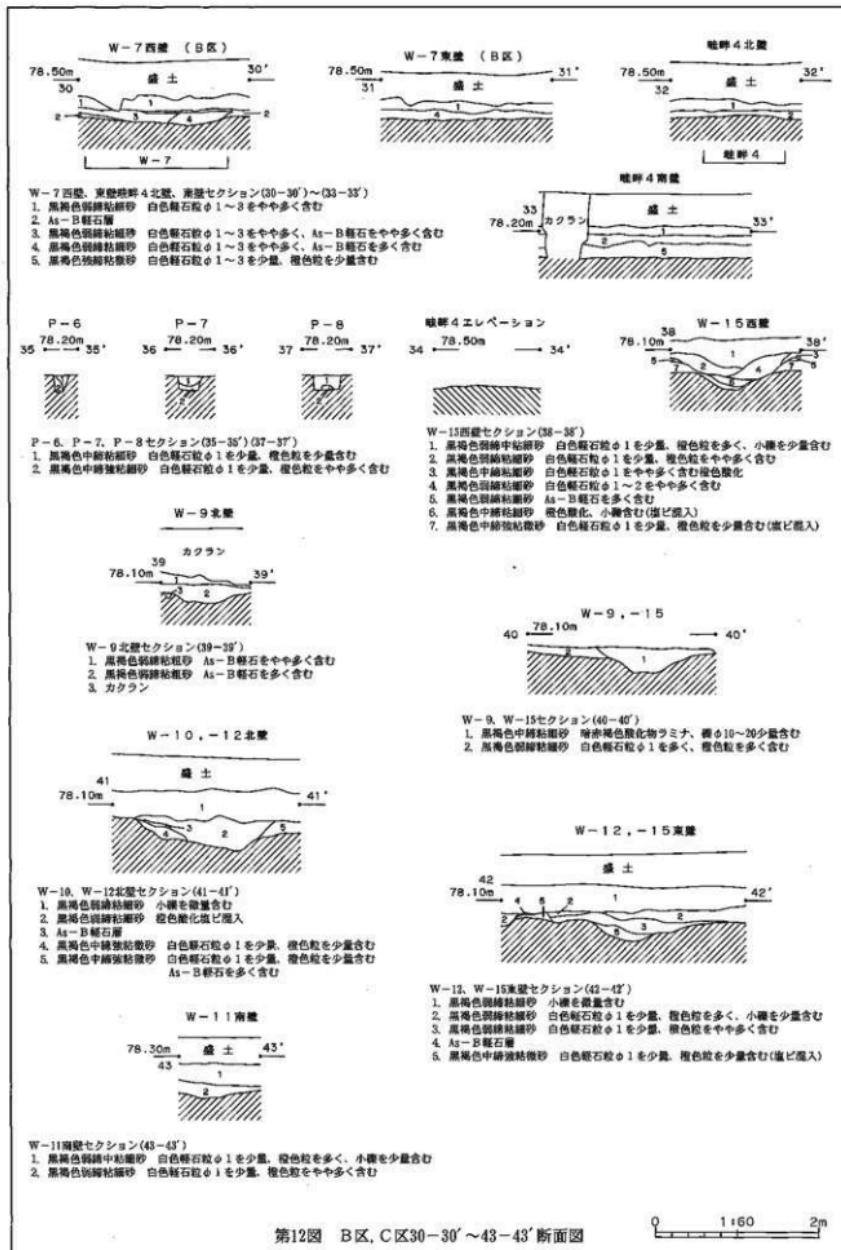


第9図 C区第1面平面・断面図

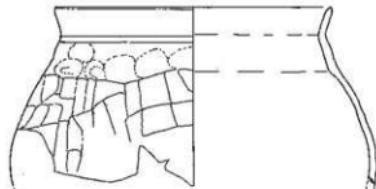
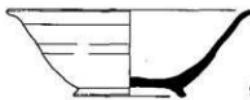
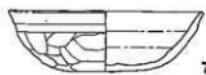


第10図 A区 1' ~ 13' 断面図





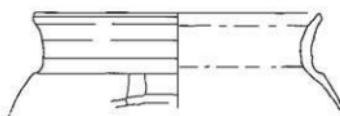
第12図 B区, C区30-30' ~ 43-43'断面図



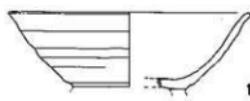
4



10



5



11

第13図 遺物実測図

0 1:3 10cm



調査前A区現況（東より）



調査前B区現況（東より）



調査前C区現況（東より）



H-1号住居址全景（南から）



H-1号住居址左カマド窯場



H-1号住居址右カマド窯場



A区 W-2, W-6 全景（東から）



A区 W-2, W-6 西壁セクション

図版 2



A区第1面西侧全景（東から）



A区第1面東側全景（西から）



B区第1面全景（東から）



C区第1面全景（東から）



A区第2面全景（西から）



B区第2面全景（東から）



A区第3面試掘トレンチ全景（東から）



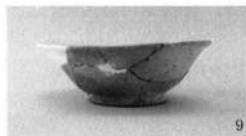
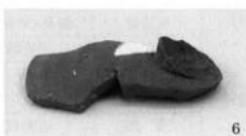
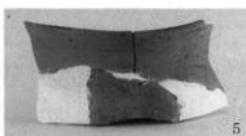
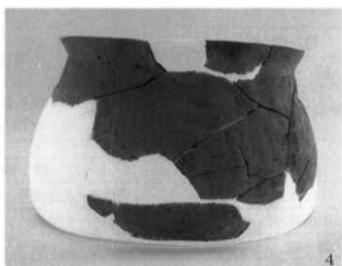
B区第3面試掘トレンチ全景（東から）



C区第2,3面試掘トレンチ（南から）



B区深堀土層断面



## 参考文献

- 西田遺跡 1996 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
五反田II遺跡 1995 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
六供下堂木II遺跡 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
宮地中田遺跡 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
鶴光路線引遺跡 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
大沢遺跡 1997 高崎市遺跡調査会  
日高遺跡(II) 1980 高崎市教育委員会  
日高遺跡 1982 群馬県教育委員会

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

## 抄録

フリガナ	ニシダロクイセキ					
書名	西田VI遺跡					
副書名	都市計画道路 横手鶴光路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
編著者名	スナガ環境測設株式会社 権田友寿					
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団					
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町2丁目10-2					
発行年月日	西暦2001年3月23日					

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ニシダロクイセキ 西田VI遺跡	マユバシシシヨウコウヤマ 前橋市鶴光路町	10201	12G50	36°19'56"	139°06'13"	2000.11.30 2001.03.23	400m <sup>2</sup>	横手鶴光路線 道路改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
西田VI遺跡	住居址	奈良・平安時代	住居址 1軒	須恵器・土師器片、石
	水田跡	平安時代	水田跡 7面	須恵器・土師器片、石
	溝跡	古墳～平安時代	溝跡 11条	須恵器・土師器片
	溝跡	中世以降	溝跡 2基	なし
	溝跡	近世以降	溝跡 2基	なし
	土坑	古墳～平安時代	土坑 2基	なし
	柱穴	古墳～平安時代	柱穴 8基	なし

## 西田VI遺跡

2001年3月18日 印刷

2001年3月23日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市三俣町2丁目10-2

編集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地の1